

わ

が

街

わ

が

故

郷

(株)ジェイテクト香川工場と東かがわ市

香川工場の紹介

当工場は、昭和50年11月に操業を開始しました。岡山、大阪から車で約2時間の位置にあり、徳島との県境に近い香川県東かがわ市にあります。約15万㎡の敷地があり、テーパローラーベアリングを鍛造から完成品まで一貫生産を行う工場です。

現在、約560名が在籍しており、主に小型サイズの自動車用ベアリングを生産しております。

また、定期的に地域住民の方を招いての工場見学会や環境月間にはゴミゼロ運動として、工場周辺の清掃活動を行い、地域から信頼される工場を目指しております。



香川工場

東かがわ市の概要

東かがわ市は、香川県の東部に位置し、明石大橋、鳴門大橋を利用すると、関西圏へは約2時間という距離から、香川県の東の玄関口とい

われています。

北は、瀬戸内海播磨灘、南と東は讃岐山脈を境に徳島県と接する温暖な気候と自然環境に恵まれた地域です。



東かがわ市地図

人口は約3万6千人、面積は153.35km²の地方都市で、平成の大合併によって、平成15年4月に、旧引田町、旧白鳥町、旧大内町の三町が合併して誕生しました。

地場産業では、9割を超えるシェアの手袋産業やハマチ養殖発祥の地として知られ、かつての讃岐三白のひとつ、和三盆糖などの伝統産業が受け継がれています。

ハマチの養殖発祥の地～「ひけた鯛」(地域ブランド)

瀬戸内海に面した東かがわ市は古くから漁業や海運業が盛んでした。長い漁業の歴史の中で、

昭和3年の野網和三郎による安戸池（あどいけ）での「獲る漁業から、つくる漁業へ」ハマチ養殖の成功は、その後の漁業に大きな変革をもたらし、世界の養殖漁業の出発点となりました。

ハマチ養殖に成功して以来、安戸池は引田の新名所となり、昭和20年代には観光化が進み、ハマチ釣り、海女の実演や遊覧船がありました。

最近では、安戸池体験学習「マーレリッコ」を建設し、ハマチ養殖80年の歴史を子供たちに伝え、また赤潮対策など瀬戸内海の環境保全についても学習する施設となっております。なお、安戸池は、名称に池が付いていますが、瀬戸内海の播磨灘に面した砂嘴（砂礫の州）で区切られた潟湖です。



安戸池

古代からの陸上、海上交通の要地（旧引田町）

～当国第一の大湊にして、大買大船（おおあきんどふね）おびただしく漁船（すなどりふね）も多し。諸国の船出入絶えず（中略）海上絶景、一眸旁百里を眺望なす能き湊なり。～と江戸時代の文献（『讃岐国名勝図会』巻之一）にも記されるように、引田は瀬戸内海に面する香川県が一番東端に位置し、古代から陸上、海上交通の要地として大いに栄えた港町です。現在でもその町並みは地域の人々によって守られ、なかでも井筒屋、旧大庄屋、かめびし屋は古くから『引田御三家』といわれ、醤油や酒造業で豪商ぶりを誇った大店でした。

現在、讃州井筒屋敷は町並み保存活動の中核的建物として蘇り、恒例の春のひな祭りには、それぞれの家の出格子や玄関、土間などに雛人形や市松人形が盛大に飾られます。歴史のある旧家も多いので江戸時代の古い雛などもあり、日頃は静かな町並みも、県内外からの大勢の見物客で大いに賑わいます。



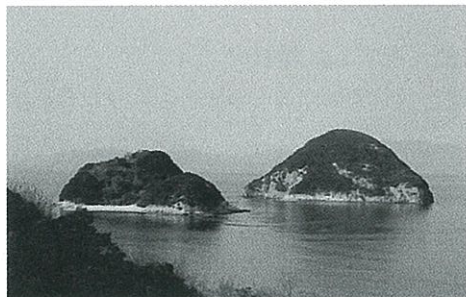
讃州井筒屋敷

東かがわ市の文化財

絹島及び丸亀島（国指定天然記念物）

絹島・丸亀島は、ともに硝子質の讃岐式安山岩からなり、絹島の北端には高さ20メートル余りの絶壁があって、ここに珍しい玄武岩の柱状節理が露出しています。

多くの柱状節理は六角または五角の柱状で直立に近い並び方ですが、絹島の柱状節理は4角柱で水平に並んでいます。島を見る位置によっては、角材を重ねた柱を小口の方から見るように、自然美が余すところなく発揮されています。両島とも波蝕洞も発達していて、絹島には柱穴



絹島、丸亀島

と碁石穴の二つがあり、丸亀島両側には奥行き25メートルに達する海蝕洞があります。

鹿浦越岬のランプロファイヤー岩脈（国指定天然記念物）

鹿浦越岬（かぶらごしみさき）は高德線讃岐白鳥駅の東北約2キロにあります。旧白鳥町付近一帯は花崗岩からなり、多数の岩脈が貫き、その断面の一部が北側海岸の断崖にあらわれています。海上から望むと、白黒のまんまくを引きめぐらしたような奇観を呈しています。白色に見えるものは黒雲母花崗岩、黒色のものがランプロファイヤー（Lamprophyre—煌斑岩〈こうはんがん〉、わが国での産出はまれです）で花崗岩の裂隙に煌斑岩が進入しています。



ランプロファイヤー岩脈

岩脈は約50度南に傾斜してほぼ北西から東南に走り（北45度ないし60度西）、その数は大小合わせて20数条もあって、厚さは2センチ前後の薄いものから2メートルにも達する厚いものもあります。

水主（みずし）神社

倭迹迹日百襲姫命（やまとととひももそひめのみこと）を祀る神社で、讃岐国延喜式内社の一つであり、創祀は奈良時代以前とされ、承和3年（836）には讃岐の神社では最初に位階を授けられました。

勅使・国司の神拝もたびたびあり、正親町天

皇の「正一位大水主大明神」の勅額も奉納されています。

社伝によると弥生時代後期に倭国の争乱を避けてこの地に居を定められた姫命は、呪力で治水・水利に神威を発揮された水徳自在の神として数多くの伝承を残されています。現在の社殿は本殿・脇宮・末社のすべてが春日造りで統一されており、神社の建設物として貴重な存在であります。

姫命の陵墓と伝えられる古墳を含む社叢一帯は、県指定の自然環境保全地域となっており、境内にある樹齢800年の大杉は県の保存木に指定されています。



水主神社 大杉

讃岐うどん

香川県を代表する食べ物といえばもちろん「讃岐うどん」です。雨が少ない讃岐地方はうどんの原材料である小麦粉の生産に適しており、うどんは古くからこの地域に根付き、親しまれてきました。一時はオーストラリア産小麦に押され、県内でも多くの店がオーストラリア産に頼っていましたが、最近では「さぬきの夢2000」という讃岐うどんのための県内産小麦が誕生し、さらにおいしく進化しています。『もちもち』、『しこしこ』のその食感にはファンが多く、「讃岐うどんブーム」が全国に広がっています。

ここ東かがわ市は古くから製塩業や醤油の製造が盛んで、塩と醤油が特産品でした。うどんづくりには欠かせない上質な塩と醤油がある東かがわのうどんがおいしくないわけがありません。市内には約20店のうどん屋が軒を連ね、どの店も味は格別です。また、讃岐人はうどんにはこだわりを持っており、当工場の食堂もメニューに手打ちうどんを取り入れています。また、工場へ来場されたお客様へのお土産としても活用しています。

(株)ジェイテクト 森 信之)